

令和7年度 園評価書

園番号

3 園名

安倍口中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かで元気な子	なぜだろう不思議だなをみつめ楽しむ子	保育者や友達と関わりを持ちながら、自分の考えや思いを自分らしく表現しようとする姿がある	わくわくデー(月・火)を設けるなど、学年の垣根を越えて行き来したり遊びの場を提供したことで、子ども同士の関わりや声かけが増え、楽しむ姿が多くなりました。また、じつり遊び時間を確保し安心して自己表現できる環境を整えたことで、表情や言葉など伝えようとする姿も増えた。	B	B	・保護者アンケートの結果から、『当てはまる』の回答が多いということは、保護者からこども園の教育・保育に賛同をもらっているということだと思う。	・保育教諭や友だちと一緒に行動する中で子どもの話を聞き、遊びの中で友達と共感・共有することで人々の事も興味を持てるようにしていく ・保育教諭同士で役割分担を見直し、子どもの表現に丁寧に寄り添う時間を確保 ・定期的な玩具倉庫やテラスの整理、清掃(可動玩具の見直しや修理) ・園内研修で保育室の環境を見合い、学び合う(年2回) ・遊びマップの記録、共有を定期的に行い、環境作りに繋げる ・やってみたいと定期的に危険が伴う等、思いに応えられない時の代替案案(教材研究や視覚的遊びについて) ・園周辺の季節の自然物について教材研究をもちと園内研修等で学び合う ・体を動かすこと、友達と一緒に楽しんでいるようにしていく ・行事を厳選して頻繁に行けるようにし、子どもも大人も安倍川の自然を知る ・安全面を確保しつつも失敗できる環境を整えていく(職員間での共通認識) ・まだ失敗した時、成功した時の動画や写真を撮り、どうしたら成功に繋がったのか共に考えていく
		「なんでだろう」「不思議だな」やってみようと思いをもち、やりたい遊びを見つけて思いきり遊んでいる	子どもの好きなことや興味のあること、「やってみよう」を逃さず捉え、遊びが展開できるように、玩具や素材、環境を整えることで、遊びが充実し、子ども達が繰り返して遊びを楽しんでいた。クラスの手を越え、異年齢で関わることで、互いに刺激を受け興味や広がり、「ココで遊びたい!」を保障できるように、職員同士で声を掛け合い、協力できた。	B	B	・安倍川の合流工事で、川幅が狭くなっていて、今まで通りに遊ぶことは難しいかもしれない。子どもも安全を遊べず、可能な範囲で地域の自然に触れているので良いと思う	
		自然や物事を五感で感じながら、身体を十分に使って遊び、「失敗しても大丈夫」と思って遊んでいる	園庭や林、安倍川周辺、公園で季節の自然物に触れ、遊びや製作に取り入れ楽しんだ。上手くいかないことがあってもポジティブな声かけをするように心がけたことで、繰り返し遊んだり体験する中で、少しずつ自信を持って遊ぶ姿も見られるようになっていく。小さな生き物の飼育を通して、命の大切さや成長の感動を味わうことが出来た。異年齢児から刺激を受け「やってみよう」の気持ちで運動遊びに取り組み姿もみられた。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	友達の良いところに気付けるように、保育者がポジティブな言葉を意識して伝えながら振り返りの時間を活用し、相手の良さを感じ取り関わり合う楽しさを味わえたりできるように、個々に応じた援助を行っている	子どもの良さや頑張りの場面を捉えて、その場ですぐに認めたリタイムリーに振り返りをするようにした。皆の前で認められるうれしさや味わえたり、周りで聞いていた子達の刺激になりやってみようとしたりする姿が見られ、一緒に行う楽しさを感じ取り組み合う姿があった。保育者がポジティブで暖かい言葉をかけたことで、子ども達も友達に認める言葉をかけるようになった様子もみられた。	B	B	・保育教諭の問いかけに対して、「分からない」という答えが多いのは、選択肢を提示しての問いかけを増やしてみたらどうか。子ども達も広げやすくなり自分で決めるのではない。代替案を出したり、「口と△のどちらにする?」と繰り返し尋ねることで、子どもが自分で考え、選択する経験が増え、考えて答えやすくなると思う。	・保育教諭が振り返り等、ポジティブな言葉を使っている(職員同士でも) ・保護者にも発信して、家庭でも褒めてもらえるような伝え方をする ・保育教諭同士でもいい所を見つけて認め合う機会を作る(会議・打ち合わせ等での報告、記入用紙を作る、ポジティブな言葉の掲示など)
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子どもが「やってみよう」としたことを認めながら励まし、保育教諭の見守りの中で「できた」を積み重ねる自信に繋がるように見守ったり援助したりしている	B	B	・生活習慣についての保護者アンケートの評価が低く出ている。それは、園ではできている家庭の中ではできていないため、保護者にとっては成果として見られていないのではないかと。園での取り組みや子どもの様子を保護者に発信することで、理解が得られるようになると思う。	・教材や環境を整え、選択肢を増やす ・保育教諭の援助が多過ぎないように、もっと『待つ』『見守る』を意識しながら関わる ・『そんなこともあるよ』という意識で、色々な遊びや経験に触れる機会を作っていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの「なぜだろう」「不思議だな」に保育教諭が寄り添い、意欲を膨らめられるような援助を行いながら、自分で考えたり、決めたりなど試行錯誤できる環境づくりに努めている	B	B	・環境を職員で見合い、子どもの興味関心や季節に沿った遊びが楽しめるように整えていく ・子どもの試行錯誤を見守る時間の確保と環境の充実 ・定期的(季節ごと等)な環境の見直し	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園内のハザードマップ作りを行い、危険箇所を可視化した上で課題を明確にしながら、事故防止や安全確保、減災教育に努めている	毎月様々な想定で訓練を行い、子ども「ここが危ないか!」この場所は安全かどうか!声をかけ確認を行った。減災教育により、少しずつ意識が変わってきたように感じる。また、職員間でも減災について考えるきっかけとなった。ヘルメットや避難リュックなどの置き場所を見直し、災害時にはすぐに使用できるように配置を改善した。	B	B	・家庭での挨拶が減っているのかもしれないので、場面を捉え挨拶できる場を作っていく事は良いと思う。その取り組みを保護者にも発信して、家庭でも少しでも取り組めると子ども達も変わってきて、保護者も成果が見えてくるのかもしれない。	・活用できるハードマップの作成、提示(ケガやヒヤリハットが発生したときにも記入できるように) ・危険箇所、リスクの高い場所の整理、共有(訓練後に反省等からの検討を実施) ・減災教育の考え方の定期的な学び合い ・約束事の確認を訓練ごとに行う
		(1)健康教育の充実	挨拶運動を実施し、挨拶の心地よさや大切さを知らせ、健康的に過ごせるような環境を作っている	「名前を呼んで挨拶」を多くの職員が実践し、子どもからも挨拶をする姿が増えてきて、朝や帰りの挨拶は定着してきているように感じている。また生活の中で必要な挨拶も場面を捉えて伝えたり、絵本などを通じて少しでも意識できるように関わっている。	B	B	・減災教育には小学校、地域からも参加し、みからの情報があった。園だけではなく地域として新たな知識が得られ、それぞれの取り組み方に活用できる。また、幼児期から減災について知らせていくことで、就学時には知っているということは重要だと思う。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	参加会や面談を行い保護者との話し合いの場を設け、月1回のケース会議を通して個別支援や集団の中での手立てについて検討・共有している	毎月、サポートプランをもとにケース検討を行い、個々に姿の共有、支援方法の検討を行った。その際に悩みなども相談することができた。また、療育先などの関係機関と連絡を取り合い、園での支援児の姿を見もらう機会もあった。	B	B	・防災においては、園だけではなく地域や学校と一緒に児童館もあつていくことが重要なので、地域には児童館もあるので連携していけるように情報共有したい。	・保育参加会や参観会、面談の実施 ・全職員での情報共有、毎月のケース検討の継続(ポイントを絞って全員分の報告) ・研修参加者から研修報告口頭での報告を行う(支援方法や実践例など) ・クラス内で選ごとと支援の強化ポイントの共有
		(1)組織体制の充実	報告、連絡、相談をし意見交換を行いながら、保育教諭や調理員が自分の役割を意識して園運営に努めている	日々の打ち合わせで翌日の予定等を確認し、周知するとともに、出席していない職員への伝達(記載ノートの確認も含め)を行った。また、行事等に向け分掌で話し合い、他の職員へ協力を求めたり、進捗状況や改善策を検討するなど、連携を図りながら進めた。	B	B	・美和地区でもトリアージ訓練ができるとういと思っていて、地域住民、学校、園が合同で行えるような訓練を今後計画していきたい。
6 研修	(1)研修体制の充実	公開保育で互いに保育を見合い、事前及び事後研修で子どもの心動かされる瞬間を捉え、子ども理解を深めている	計画的な公開保育の実施により、職員の参観、事後研修での意見交換ができた。視点を絞って保育を見合うことで、各クラスならではの話し合いができた。また、静岡大学の井上先生に講師として来て頂き、指導講評・助言して頂き、子どもの動きの観望で学ぶことができ、自分の保育について振り返りとなった。また、環境についても見合うことで、各クラスの再構成や新しい取り組みのきっかけとなった。	A	A	・防災・減災教育について、保護者にも更に伝えていくといい。子どもから話も聞いているかもしれないが、こども園が親の情報を得る場となれるといいのではないかと。	・事後研修の中で、より語り合いやすい場を作り、簡単なワークを行う(子どもの姿からどこに繋がっているかを検討するなど) ・見学者が分りやすい短い文章で記入する ・園内研修のフローチャート作成して、基本の進め方を全体で周知する(作成・実行済み) ・室内外の環境を互いに見合い、意見交換する
		(1)教育・保育環境の充実	職員が河川敷で自然物を拾い遊びに取り入れる等、地域の環境を活かしながら、地域の良さを知り、関わりを深めている	異年齢による新職員に向けた安倍川の研修会を実施し、子ども達と季節の遊びを楽しんだ(川探検、林散策、河川敷やグラウンド探検等)安倍川の河川敷、林、近隣の公園などで落ち葉や木の実、どんぐりなどを子ども達と一緒に拾い集め製作に取り入れた。また、遊びの中で、BBQごっこや石を見立てたごっこ遊び等に取り入れ、どんぐり転がしや遊びづくりに使用したりして親しみを持っていくようにした。	B	B	・地域の子どもが少ないので、地域行事にこども園が参加すると活気づくので、今後も協力してほしい。また、園と児童館と交流を更にしていきたい。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	登園時、ハグ習慣を作り触れ合う時間を設け、保護者も子どもも安心して笑顔で生活できている	ハグ週間の継続により、個々に応じて登園時の親子のハグやタッチなどスキンシップの時間を確保し、「玄関でバイバイできた!」等気持ちよく帰って来たり、安心してすごせる子どもが増えていると感じる。また、担当クラス以外の子どもで、送迎時に日中のエピソードを保護者に話すようにしている。	A	A	・先生達がわかちやってみていくということが大事なので、先生たちの評価がもっと高くても良いと思う。	・保護者が作品などを見ることのできるように月ごとに玄関に掲示する ・来年度も丁寧な受け入れとハグ習慣の継続 (できるだけクラスでは玄関に立つように人員配置をする) ・自分から気持ちに区切りを付けたときの認め ・家庭でのメディアコントロールの協力
		(1)近隣の園との連携	散歩や給食参観、一緒に行事に参加するなど、近隣園と交流の場を設けたり、公開保育や公開授業に参加したりし、連携を深めている	安倍口こども園との合同運動会を実施で、交流を持ちながら取り組めた。また、林の散策やおけけ屋敷の見学など、行事以外でも交流ができた。公開保育や公開授業、運動会やチャレンジジャンの参観、避難訓練の協力など地域の園や小学校と交流を持つことができた。特に年長児は、定期的な交流を持つことで、会えることを楽しみながら関わることができた。	A	A	・安倍口、美和、足久保こども園との交流の実施 ・美和小学校、安倍口小学校訪問 ・小学校、近隣園と定期的に連携を取り、計画的に訪問・見学・交流を行う ・年長児の就学先の小学校と連絡を取り、公開保育公開授業の参観
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域資源を活かしながら、自分たちの住む地域に親しみを感じ、豊かな生活体験が得られるよう、交流を図っている	安倍口サロンでお年寄りとの交流、地域の夏祭り、小学生とのスイカ割り、ハロウィンでの練り歩き、灯籠作りなど、季節のイベント、行事を通して子どもが地域の人や環境に親しむ機会を持つことができた。	A	A	・ネイチャービンゴ等を通して子どもも職員も楽しく知っていく機会を作り、園内や地域の自然について知る ・近隣施設への訪問を更に計画し、日常的な地域交流の機会を増やす ・地域を知るために放棄する機会を多くもつ(子どもも職員も)	